

上方役者絵の判型（付・細判目録）

松 平 進

上方の錦絵摺り役者絵は、細判・大判・中判の三種の判型に大別できる。例外的には団扇判や中判の半分・四半分といった小判もある。また範圍を上方浮世絵版画一般に広げると、文明開化期の新風景・風俗を画いた横長判もある。しかし大勢は細判・大判・中判の三種と言っている。細判は縦三二稜余り横一五稜内外で、江戸のそれと同じく美濃紙を三分割したものと考えられる。大判は縦三八稜余り横二六稜内外で、これも江戸と同様大奉書を半裁したものと見てよからう。中判は大判の半分で、縦二五稜余り横一八稜内外である。これらの形状と面積とが可なり相異なる判型が、歴史的にはこの順序で移り変っているのである。寛政三年（一七九二）の上方における錦絵一枚摺りの発生から文化十年（一八二三）までの二十年余りが細判の時代、

文化十年から天保改革の役者絵禁止までが大判時代、そして改革の終焉以後が中判時代ということになる。関心が持たれないままに、散逸と海外流出が進んでしまった上方絵では、初期作品即ち細判を見る機会に余り恵まれていなかったのだが、近時かなり寓目する折を得たので、この機会に判型について述べ、あわせて細判役者絵の目録を作製しておきたい。

上方錦絵版畫の最初は流光齋如圭画の一群の細判であるが、これ以前上方に一枚摺りの版畫がなかったわけではない。例えば近時発見紹介されたベルギー王立美術館所蔵の長谷川光信画（注¹）細判墨摺二点は、享保末から元文頃（一七三〇年代）の版行と思われる武者絵で、版元は不明だが「棋陽大和絵師柳翠軒長谷川光信」の署名があり、それぞれ「くらのまの僧正うしわか」

「大江山酒吞童子源頼光」と記してある。縦二七横一六は細判としては少々寸づまりだが、上下共にかなり切落されているためである。役者絵では梅雪堂貞道画の墨摺手彩色細判が早いものである。京都四条繩手角の鍵屋から、寛保二年（一七四二）から三年にかけて版行され、三点が管見に入っている。一は寛保二年十一月北側東の芝居で、「おひで」に扮した辰岡久菊、二は翌三年正月南側西芝居、「いしべきんきち」の萩野伊三郎と「ごろたの三ぶ」の藤川平九郎。三は同三年十一月北側東芝居で、「ごばんにんぎやう」を踊る山崎与次兵衛である。このほかに合羽摺り版画が上方にはおびただしくある。年代の確定できるところも早い作は、岡本雪圭斎昌房が画く「清水清玄」の初世中村歌右衛門・「奴淀平」の三枘大五郎の細判で、明和八年（一七七二）三月中座の上演である。昌房に合羽摺は多く、有馬湯女を画く風俗画もあるが、すべて細判である。上方における錦絵誕生以前の版画の型というものは、わずかな例外はあるが圧倒的に細判主流であったと言っている。従ってはじめの錦絵版画が細判で版行されたのは、極めて自然な成り行きだったのである。ただし流光斎には一枚だけ大判作品が知られている。^(注)縦三五・二横横二四・六程だから文化十年以降一般化する大判よりは少々小さい。四辺の切り落しもないようだ。当時

例外的な判型で、管見の限り唯一の孤立した作例である。

細判錦絵の命脈は四半世紀続いた。管見の範囲でそのもつともおそい作例は文化十一年のものである。正月角座所演の「いせい筑紫歌」で「沖津仁三」に扮した二世嵐吉三郎を画いたもの。版元は綿屋喜兵衛、画工は有楽斎長秀の門人秀栄である。これに対し大判のもつとも早い作例は、管見の限りでは文化九年である。四月角座所演「倭歌月見松」で、二世嵐吉三郎は左、甚五郎・孔雀三郎・中納言行平に扮した。この三役を大判一枚に画いたもので、絵師は春好、版元は塩屋長兵衛である。文化九年から十一年までの三年間は、細判大判平行期になるわけで、同じ「倭歌月見松」に取材した細判も次に記す三点四枚が管見に入った。（役・役者代・絵師・版元の順に記す）

○行ひら 嵐吉三郎⁽²⁾ 春好画 傘

松風 叶取子⁽¹⁾ 春好画 傘

*大首絵一枚続。画中に題名「月見松」「つき見のまつ」。

○沙くみ松かゑ 叶取子 春好画 塩長

*一人立ち海女姿。画中に題名「月見松」。

○まつかせ 叶みんし⁽¹⁾

行ひら 嵐吉三郎⁽²⁾ (欠) 塩長・布徳板

*行平立姿、松風座姿。

大判が版行されるようになった理由は、容易に想像できる。細判がある程度成熟すれば、より大きな画面で役者を見たいという欲望がおこるのは当然であろう。江戸で浮世絵版画が大判になってすでに久しい。豊国も写楽も、寛政期に大判の逸品を公にしている。それらは上方でも売られたと考えてまちがいない。三都の間での役者の往来もすくない数ではない。就中、上方の巨星三世中村歌右衛門の江戸出演は文化五年から九年の長期にわたり、第二回は文化十一年から十二年、第三回は文政元年から二年と続いた。この第一回の江戸下りの折、豊国が画いた歌右衛門の大首絵は、

猿廻し与次郎 中村歌右衛門

文化五歳辰五月二番目狂言

江戸豊国筆

と記されている。^(注3) 上方で売るための「江戸豊国筆」の署名であることは間違いない。五年ぶり文化九年に大阪に帰った歌右衛門のその当時の人気を考えると、この大首絵が爆発的に売れたであろうことは、想像に難くない。一旦はしまった大判の役者絵は急速に普及し、細判はたちまち後退して合羽摺にのみ残される判型となつてしまった。そして大判時代はこれまた四半世紀続くことになる。

水野忠邦の天保改革で具体的に役者絵を禁じているのは、天保十三年七月二十九日に出された次の御触である。『近來年代記』(大阪市史料第一輯)からひく。

近來錦繪と唱、歌舞伎役者・遊女・女芸者等之形を窓枚摺ニいたし候段、風俗に拘り候筋、其外合巻と唱へ繪紙之るい繪柄杯格別人組、重も二役者之似顔・狂言之趣向等二書綴、其上表紙・上包等二彩色相用ひ、無益之義、手数を尽し、高直ニ売出し候趣有之、以來開板ハ勿論、是迄仕入候分共、決^西究買致間敷候。

扇屋・団扇屋其外小間物屋等商物之内、前同様之絵柄有之由相聞候。且又究買可差止候。

「浮世の有様 九」(日本庶民文化史料集成第十一卷)には、「七月廿七日 石見 遠江 北組総年寄/口達」として、同趣旨で敷衍した形で出ている。この禁令が実際とどう関連しているか。管見に入つた限りで、この年のもつともおそい版行と推定される役者絵をあげてみると次の通りである。

○よし田松若丸 尾上菊五郎⁽³⁾ 長谷川貞信画 天喜
花子後^三清玄尼 中村富十郎⁽²⁾ ♪ ♪

(天保十三年三月、中座、鏡山再統梯)

○越野勘左衛門 三折源之助⁽¹⁾ 一鶯斎芳梅画 本清

（天保十三年三月、筑後、花都矢敷巻）

これ以後と考証される役者絵には今のところ出会っていない。つまり禁令より四か月以上前で実際には役者絵は見られなくなるわけである。すでに江戸では前年の十二月に芝居町移転の予告があり、一月には浅草聖天町最寄地が替地に指定されているし、大阪でも四月には芝居の華美を禁ずる厳重な布令が出ているから、御意向を先取りして自粛したのであろうか。その詳細については、寡聞にして知らない。次に天保改革終焉後のもっとも早い役者絵を見よう。管見では次のような貞信・貞芳・広貞の作品が同時に見られるものである。（一）に括った文字はすべて推定・考証により加えたものである。

○団七九郎兵衛（中村芝翫(3)） 貞信（欠）

（弘化四年五月、筑後、夏祭浪花鏡）

○団七九郎兵衛（中村芝翫(3)） 魁春亭貞芳画 画

一寸徳兵衛（片岡我量(2)） ♪ ♪

（右向狂言）

○忠孝伝・和藤内（中村芝翫(3)） 広貞 スリ伊三（欠）

（弘化四年五月、筑後、国性爺合戦）

これ以前と考証される役者絵が出て来ないから、管見の限りでは、禁令によって五年二か月の完全な空白があったことになる。

ここにあげた三点はもちろん中判であり、一旦中判による版行が始まると以後は怒濤のように続いて、中判時代の到来となるわけである。

中判はしかしこの時はじめて現われる判型ではない。文政十二年正月中座に出演の奴妻平に扮する嵐璃寛(2)を画いた芦ゆき作品などは、管見では早い時期の中判作品である。以後も文政・天保期に中判作品は間々見られる。その中にはむしろ玩具絵に類する粗末な摺りの中判や、その半分の型の小判を画く淡好齋のような絵師もいる。次にあげる貞升・貞信の中判などは、美観な上摺りの大首絵で、たしかに型は半分だが、大判に劣らぬ迫力を見せる佳作品である。

○鉄ヶ巖（片岡市蔵(1)） 貞升画（欠）

岩川次郎吉（嵐徳三郎(3)） ♪ ♪（欠）

（天保十年八月、大西、関取千両鏡）

○真柴久よし（中村歌右衛門(4)） 長谷川貞信画（欠）

（天保十一年七月、市村、祇園祭礼信仰記）

*江戸所演の役を上方で版行したものである。

しかし天保改革前は大判の時代であることは間違いない、中判は微々たる量である。改革以後はこれが逆転し、中判中心で膨大な量生産された中に、わずかな数の大判を見ることになる。

広貞・広信・貞芳・芳瀧らが大判を画いているが、彼らはすべて中判の主要絵師である。ところで改革以後の中判には、際立った特徴がある。(一)は画中に鉄ヶ嶽・真柴久よしなど役名は記すが、嵐徳三郎・片岡市蔵といった役者名を記さないこと、(二)は画面に「教訓題尽」「浄瑠璃外題尽」「本朝義臣伝」「義勇伝」「忠孝伝」「名譽伝」「古今勇人記」といった堅い題を記すことである。芝居は「夏祭浪花鑑」だが、画面には「古今勇人記」とあり、「生写朝顔話」の絵に「本朝義臣伝」とあり、内容とは何の関係もない題である。やはり、禁令に対し明瞭な解除令などないまま、様子を伺いながらの復活版行だから、役者絵でないように見せかけたものだろう。さすれば大判に復さず中判で再開されたのも、権力者をはばかったのだろう。結局、中判の時代も四半世紀余り続いた。以上判型の展望を終えたので、次に細判にはどのようなものがあるか、現在までの管見の限りを目録化しておきたい。

上方細判役者絵目録

○役、役者代、絵師、版元の順に記した。

○表記は画面に見えている通りとした。(一)に括った文字は推

定して加えたものである。

○(一)内には、その芝居の上演年月、劇場、外題を考証して記した。

○*印を付して、注記を加えた場合がある。

○「許多脚色帳」貼りこみの役者絵は、人物切抜が多く原型不明だが、細判と確實に推定できるものは目録に加えた。

○尚集・目録などに写真版で紹介されているものは、その旨記し図版番号を加えた。「脚多脚色帖」の場合は、「日本庶民文化史料集成」十四・十五巻の写真番号を加えた。

○ここに採った尚集・目録は次の通りである。「」内に記したのは、目録中で用いた略称である。

・大阪鑑 Osaka Kagami, Jan Van Doesburg 編、一九八五年、Huy's Den Esch [大阪鑑]

・上方浮世絵二〇〇年展図録、鈴木重三・松平進編、昭和五十年、日本経済新聞社 [二百年]

・許多脚色帖 (日本庶民文化資料集成第十四巻) 昭和五十年、三一巻書房 [許多]

・浮世絵聚花・ベルギー王立美術歴史博物館、昭和五十六年、小学館 [聚花]

・近世大阪画壇、大阪市立美術館編、昭和五十八年、同朋社 [画壇]

・浮世絵大成第九巻、昭和六年、東方書院 [大成]

・上方絵一覽、黒田源次著、昭和四年、佐藤章太郎商店 [一覽]

・浮世絵大系第七巻、山口桂三郎編、昭和五十年、集英社 [大系]

・東洋美術第十二所載・流光斎と松好斎、春山武松、昭和六年七月〔東洋〕

・歌舞伎絵大成・寛政期、田口鏡次郎編、昭和五年、中央美術社〔寛政期〕

・E. Lewis, Ich. Catalogue 1975 May. [ルイス目録]

・浮世絵芸術四卷十二号上方絵の観賞、昭和十一年十二月〔浮世絵芸術〕

・北洲と豊国、拙著、昭和五十八年、阪急学園池田文庫〔北洲〕

・上方芝居絵展目録、拙稿、昭和六十年、国立劇場〔芝居絵〕

1 桃井若狭之介 中山来助⁽²⁾ 流光斎画 ⑤

〈寛政三年十一月、中、仮名手本忠臣蔵、大阪鑑1〉

2 在原なり平 芳沢いろは⁽¹⁾ 流光斎画 ⑤

〈寛政三年十二月、角、鮫伊勢物語、大阪鑑2〉

3 (時平) 叶珉子⁽¹⁾ (流光斎) (欠)

〈寛政四年二月、中、天満宮業種御供、二百年32〉

4 (未詳) 沢村訥子⁽³⁾ (流光斎) (欠)

〈寛政四年頃、二百年16、許多十三93切抜〉

*「許多」注記は「南方十治兵衛 叶雛助」。

5 (吉川おとはる) 関三右衛門⁽¹⁾呂木⁽²⁾ (流光斎) 塩長板

〈寛政四年三月、角、色鏡鏡前戯、二百年23、許多十三96切抜〉

6 (唐橋作十郎) 中山来助⁽²⁾ 流光斎 (花押) (欠)

7 大森彦七 叶雛助⁽¹⁾ (寛政四年九月、角、忠孝登三衛 聚花ベルギー113、許多十三92切抜)

栗生左衛門 市川団藏⁽⁴⁾ 流光斎 (花押) 大左板

〈寛政四年十一月、角、人心叶戯場、画壇184〉

8 (大星由良之助 尾上新七⁽¹⁾) (流光斎) (欠)

〈寛政四年十一月、中、忠臣及葉蔵、許多十四7切抜〉

9 (小倉豊前 市川団藏⁽⁴⁾) 勝負革 (流光斎) 大左板

〈寛政五年正月、角、勝負革奴道成礎、大成96〉

10 山田僧都兵衛 浅尾為十郎⁽¹⁾ 勝負革奴道成寺 流光斎 (花押) (欠)

〈右同狂言、二百年9〉

11 (ひがきのお大) 叶雛助⁽¹⁾ 二ノ替り新狂言 塩リン

〈右同狂言〉

12 (一色結城守) 尾上新七⁽¹⁾美雀⁽²⁾ (流光斎) 塩長板

〈右同狂言、大成九28、大系718、一覽55〉

13 (奥方ねざめ 山下金作⁽²⁾) やなきさくら 流光斎 (花押) 大左板

〈寛政五年正月、中、けいせい楊柳桜、大系171〉

14 柴ひだのかみ 山村儀右衛門⁽²⁾ けいせい楊柳桜

〈寛政五年正月、中、けいせい楊柳桜、大系171〉

右同狂言
流光斎(花押) 塩リン
22 (未詳 中山来助(2)) (欠)
《寛政五年頃、許多十三89切抜》

15 淀や辰五郎、嵐三五郎(2) 流光斎(花押) 塩リン
23 唐木政右衛門 叶雛助(1) (欠)
《寛政五年十一月、角、伊賀越乗掛合羽、許多十四26切抜》

傾城吾妻 芳沢いろは(1) 流光斎 塩リン
24 (石留武介) 姉川新四郎(3) (欠)
《右同狂言、大成七183、二百年11》
《右同狂言、大成九38、一覽56、許多十四40切抜》

16 (三番聖人形を遣う) 浅尾為十郎(1) 流光斎 大左板
25 (夕霧) 中村のしほ(2) 蘭耕 流光斎 塩長板
《寛政五年春頃、劇場・外題未詳、大系七185》
《伊左衛門》 泉川桶藏 化龍(はくろ) (〃)

17 あきつかたてわき 叶雛助(1) 流光斎 塩リン
26 (四の宮六郎) 姉川新四郎(3) (欠)
《寛政五年二月、角、けいせい陸玉川、一覽52》
《寛政五年十一月、角、けいせい阿波鳴戸、二百年19、大系七190》

18 (丹波与作 嵐三五郎(2)) (流光斎) (欠)
塩長板
《寛政五年四月、中、東海道恋聞札、許多十四24切抜》

19 石堂かげゆ 浅尾為十郎(1) (流光斎) 塩長板
27 おはや 花桐四声 (流光斎) (欠)
《寛政五年九月、太平記菊水の巻、一覽53、大成九29、許多十四32切抜》
《寛政五年頃、座・外題未詳、許多十三85》

20 (よせ浪 山下金作(2)) (流光斎) (塩長)
28 (未詳) 嵐吉三郎(2) 里環 (流光斎) 塩長板
《右同狂言、許多十四32切抜》
*「許多」注記は「芝六女房おきし 花桐登松」。

21 (足利時徒之助 中山来助(2)) (流光斎) (塩長)
29 (石川五右衛門)・市川団藏(4) 流光斎 塩・リン
《右同狂言、許多十四32切抜》
《寛政五年頃、座・外題未詳、大系七184、二百年12》

*「許多」注記は「時徒之助 山下金作」。

30 菅相丞 嵐三五郎(2) (流光斎) (欠)
《寛政六年四月、中、菅原伝授手習鑑、大成九38、許多十四50》

31 桜丸女房八重 芳沢巴紅 流光齋 (欠)

〈右同狂言、二百年14〉

32 らんのかた 沢村国太郎(1) 春湖画 (欠)

〈寛政六年十一月、中、仮名写安土問答、大成九22〉

33 (未詳) 浅尾為十郎(1) 流光齋(花押) (欠)

〈寛政六年頃、座・外題未詳、大成九39、寛政期8〉

34 (かさもりおせん) 中村のしほ(2) 蘭耕らんかう(花押) 塩長板

流光齋(花押)

〈寛政六年頃、座・外題未詳、二百年10〉

35 (こそへの友春) 嵐三五郎(2) 松好(花押) 塩長

〈寛政七年五月、角、愛護若名歌勝閑、二百年24、許多十四90切抜〉

36 (二条藏人) 嵐小六(2) 松好(花押) 塩長

〈右同狂言、二百年25、大系七193、許多十四90〉

37 小栗栖重兵衛 中山文七(3) 松好画 塩長板

〈寛政八年九月、中、敵討安栄録、大成九26〉

38 大川友右衛門 尾上鯉三郎(1) 松好画 塩長板

〈寛政九年五月、角、浅草靈験記、二百年26〉

39 (印南十内) 尾上鯉三郎(1) (松好) (欠)

〈右同狂言、許多十五73切抜〉

40 (橋本治部右衛門) 尾上鯉三郎(1) (松好) (欠)

〈寛政九年十二月、角、双蝶々曲輪日記、許多十五49切抜〉

41 (北山鬼藤太) 嵐雛助(2) (松好) (欠)

〈寛政十年正月、若太夫、けいせい桜花北山、許多十六21切抜〉

42 梶原源太 嵐来(芝) (松好) (欠)

〈寛政十年三月、天満天神、ひらがな盛衰記、東洋12〉

* 嵐来芝は嵐三五郎(2)。

43 山中左衛門 嵐三五郎(2) 一世一代狂言 松好(花押) 塩長板

〈寛政十年三月、天満天神、花衣いろは縁起、大成九27、許多十六37切抜〉

* 芳沢巴紅は芳沢いろは(1)IIあやめ(5)。

44 治兵衛 藤川音松 松好(花押) 塩長板

〈寛政十年頃、座・外題未詳、東洋12、許多十六44切抜〉

45 左衛門祐経 嵐雛助(2) 市村座二の替り狂言 松好(花押) 塩長板

* 藤川音松は中芝居役者。

浪花松好画 會

〈寛政十二年五月、市村、梅薫眷曾我、寛政期62、二百年29〉

46 梅かえ 芳沢巴紅 (松好) (欠)

〈寛政十年頃、座・外題未詳、大成九28、寛政期56〉

* 芳沢巴紅は芳沢いろは(1)IIあやめ(5)。

47 (未詳) 市川団藏(4) 市江しやう (松好) 塩長板

(寛成十年頃、座・外題未詳。二百年17)

48 大星力弥 叶みんし(1)

すは勝五郎 嵐吉三郎(2)

(享和元年四月、京北、絵本忠臣蔵)

(欠) 塩長・布徳板

49 だんしちのもへい 坂東重太郎(1) 岩井風呂

あし国画 塩長板

(享和元年六月、北新地、宿無団七時雨傘、ルイス目録)

50 丹右衛門 嵐吉三郎(2) 伊賀(へ)

城五郎 片岡仁左衛門(7)

(享和元年十月、中、伊賀越乗掛合羽)

あし国画 塩長板

51 (梶塚幸六 市川団藏(4))

(享和二年正月、角、けいせい美鳥林、許多十七50切抜)

(欠) (欠)

52 (裏方お百?) 瀬川路考(1) 浪花目見へ狂言

(松好齋) 會

東菊いろもひとしをおしてるや難波に今はかへり咲して

(享和二年十一月、中、東金草浪花着綿、大成九巻、寛政期63)

53 (未詳) 瀬川路考(1)

あふ毎にいとしと君かゆひ綿も瀬川となりしその人そうき

松好齋 會

(享和三年正月頃、座・外題未詳)

54 筑紫権六 嵐吉三郎(2) 江南松好齋画 塩長板

(文化元年正月、角、けいせい箱伝授)

55 菅相丞 坂東彦三郎(3)

(文化元年十二月、中、菅原伝授手習鑑、許多十八9切抜)

(真平画) (欠)

56 まつたしばらく 森田勘弥(9)

*本目録81番とこの作品とは、人物は同版。版木流用と思われる。十八乃応尔能当等枝你比支架衣低都廻末恵加美乃固倭比於母

可計

(文化二年正月、角、まつしばらく今入姿、二百年35、浮世絵芸術)

57 花園みちつね 中村歌右衛門(3) 江南松好齋画 塩長板

*十八の鬼のたとえにひきかえて角前髪かみのこはひおもかけと流める

実まことはなきしろうよふじゆつをもつていつひめのすがたとなる

(文化三年正月、中、けいせい善佳節、大系七巻、二百年32)

58 けいせい玉川 芳沢あやめ(5) 江南松好齋画 塩長板

(右同狂言、大系七巻、二百年31)

59 ろくやおん軍八 大谷友右衛門(2) 自来也談

あさづま歌之助 浅尾おく山(2) 春好(花押) 塩長板

(文化四年九月、角、桐自来也談)

60 やつこ鹿蔵 市川市蔵(1) 輝紳紙

けいせい八重垣 沢村田之助(2) 春好 塩長板

〔文化五年正月、角、けいせい輝草紙〕

61 白びやうし 沢村田之助(2)

あし国画

〔欠〕

〔右回狂言、北洲1、芝居絵4〕

68 沢井股五郎 浅尾工左衛門(1)

蘭好齋画

塩長板

から木政右衛門 片岡仁左衛門(7)

〃

〃

62 おだき甚内 あらし吉三郎(2) いたこぶし

船頭茂治兵衛 大谷友右衛門(2)

春好(花押)

塩長板

いしどめ武助 嵐猪三郎(1)

〃

〃

〔文化八年正月、中、けいせい駅路梅、浮世絵芸術、大系七198〕

〔文化六年正月、中、けいせい潮来瀧〕

63 花月いん 叶瑕子(1) いたこぶし

青柳だん正 嵐吉三郎(2)

春好

塩長板

69 佐々木丹右衛門 嵐吉三郎(2) 伊賀越

春好齋画

塩長板

女房さ、尾 中村大吉(1)

春好齋画

塩長板

〔右回狂言〕

64 横蔵 片岡仁左衛門(7)

慈悲蔵 市、川市蔵(1)

春好齋(花押)

塩長板

70 ごふくや十兵衛 嵐吉三郎(2) 伊賀越

春好齋画

塩長板

〔右回狂言、大系七19〕

71 鉄ヶだけ 浅尾工左衛門(1) 千両織

千両織

春好齋(花押)

塩長板

65 高丸亀治郎 中山百花(3)

たどつ一角 嵐吉三郎(2)

春好(花押)

塩長板

岩川 嵐吉三郎(2)

春好齋(花押)

塩長板

〔文化七年正月、角、けいせい廓船謡、一覽57〕

66 長崎四郎左衛門 片岡仁左衛門(7) けいせい廓船謡

多度津一かく 嵐吉三郎(2)

春好(花押)

塩長板

72 岩川次郎吉 嵐吉三郎(2) 千両織

春好齋

塩長板

女房おとは 叶みんし(1)

春好齋

塩長板

〔右回狂言、北洲2、芝居絵3〕

67 はしとみ両助 嵐吉三郎(2)

女房おゆき 中山よしを(1)

春好(花押)

塩長板

73 亀井太郎 嵐吉三郎(2) 大ねん仏

春好画

塩長

〔文化八年七月、角、融通大念仏〕

74 わしづか市郎丸 大谷友右衛門(2) いろは蔵

春好改松好齋画 垣長板

〔文化八年十一月、京南、いろは蔵三組盃、浮世絵芸術、大系七巻〕

75 みつき キッ坂東重太郎(1) (欠) 笨

〔文化九年閏四月、森田、伊勢音頭恋寝笈〕

*江戸所演の役を上方で版行したもの。

76 行ひら 嵐吉三郎(2) 月見松 春好画 笨

松風 叶張子(1) つき見のまつ

〔文化九年五月、角、倭歌月見松〕

77 汐くみ 松か衛 月見松 春好画 垣長

〔右回狂言〕

78 まつかぜ 叶みんし(1)

行ひら 嵐吉三郎(1)

〔右回狂言〕

79 (舞上りの鶴実ハ平清盛) 中村歌右衛門(3) (欠) 垣長 布徳板

〔関原与一〕 坂東彦三郎(4)

〔文化九年十一月、中、翻錦鶴翼袖、二百年57〕

80 遠州や伊平次 嵐吉三郎(2) 姉妹達大礎 姉妹達の礎 春陽齋画 垣長板

〔文化十年正月、角、姉妹達大礎、一覽66〕

81 蒼相丞 坂東彦三郎(3) 一世二代暇乞名残狂言 真平画 (欠)

〔文化十年九月、角、菅原伝授手習鑑、大成七巻〕

*本目錄55番とこの作品とは、人物は同版。版木流用と思われる。

82 斧定九郎 市川八百蔵 露好画 垣長板

〔文化十年頃、座未詳、仮名手本忠臣蔵、浮世絵芸術〕

83 沖津仁三 嵐吉三郎(2) 長秀門人秀栄画 綿喜板

〔文化十一年正月、角、けいせい筑紫歌〕

〔注1〕『秘蔵浮世絵大観9・ベルギー王立美術館』242図、一
九八九年三月、講談社。

〔注2〕『上方浮世絵二〇〇年展』13図、『近世大坂画壇』58図。

拙著『流光齋大判役者絵考証』(『甲南国文』三十四号、昭和
六十二年三月)参照。

〔注3〕『浮世絵大系9・豊国』177図。昭和五十一年、集英社。

(本学教授)